

会議録要旨

(1)会議の名称	第2回 芦原温泉駅周辺整備基本計画改定委員会
(2)開催日時	平成28年11月1日(火) 14:00～17:00
(3)開催場所	あわら市役所 301 会議室
(4)出席委員氏名	川上委員、藤澤委員、達川委員、関委員、前田委員(代理) 大谷委員、笹原委員、八木委員、佐藤委員、平井委員、川西委員 堀江委員、村治委員、西村委員、猪嶋委員、松浦委員 16名
(5)欠席委員氏名	なし
(6)会議議題	・デザインコンセプト案について ・改定作業経過報告について
(7)会議資料名称	デザインコンセプトアンケート結果 デザインコンセプト(案)追記差替え用 あわら未来づくりアンケート用紙 芦原温泉駅周辺将来デザイン市民投票チラシ 芦原温泉駅周辺整備基本計画書(改定案) 次回のワーキング部会に向けた修正のポイント 改定委員会名簿 スケジュール表(修正版)
(8)会議の内容の要旨	<p>(1)デザインコンセプト(案)について</p> <p>委・JR芦原温泉駅は坂井市と広域連携しているので、坂井市との摺り合せが必要ではないか。</p> <p>事・坂井市にアンケート実施についてお願いに行ったが、実施していただけなかった経緯がある。</p> <p>委・芦原温泉駅は東尋坊とも切っても切り離せず、食に注目するのか温泉のおもてなしなのか、案はこれらを切り離して作られているので、どのように考えたらよいか。</p> <p>委・自然であれば、あわら市の自然から嶺北北陸の自然につながり、あわら市に留まらないと考えられる。局部的に捉えるよりも、漠然と捉えた表現の方がよいのではないかと。また他都市のデザインコンセプトは気持ちを表す言葉が入っていたいため、あわら市らしさが出てくると思っている。</p> <p>委・機構のデザインする人に地域の特徴として提言するには、ある程度抽象性をもたせ、付帯意見も付けてリクエストすることになる。市民アンケートの結果でも、あわら市に限定した結果になっていないので、広域の駅勢圏全体を代表する案を提案にした方がよいのではないかと。</p> <p>委・駅舎のデザインコンセプトとまちづくりの関係が分かりにくい。</p> <p>事・地域ブランド戦略のブランド部会では、「都会にはないぜいたく」というキーワードが示されており、これらと整合を図りながら、駅舎のデザインコンセプトを決め、まちなみデザインと整合を図っていきたいと考えている。</p> <p>委・加賀温泉駅は温泉がキーワードに入っていないので、あわらで使えるメッセージになる。また北陸の冬は鉛色と言われるので、明るい言葉がよい。</p> <p>委・新幹線駅舎の外観が見える視点場としては限定的になるので、駅舎内の</p>

	<p>感じ方がアイデアを出す部分になるのではないか。</p> <p>委・案の追加「雄大な自然と歴史が織りなす 癒しと贅の駅」</p> <p>委・案の追加「癒しとおもてなしに包まれる心地よい駅」</p> <p>事・5案に2案を追加した7案について投票を行った結果、第3案目の「あわらの大地に湧き出る贅の駅」が1位となった。</p> <p>事・この委員会としては第3案「あわらの大地に湧き出る贅の駅」に決定し、11/11のブランド戦略会議に決定案を示し、12/16の当改定委員会で決定する予定である。</p> <p>(2)改定作業経過について</p> <p>事・改訂案については現在改定作業中であること、また自由通路や連絡通路に関する内容は、関係機関との協議が完了しておらず、現在のところ予定として書かせていただいている。引き続き協議を行い改定内容の計画通りに進めていけるように調整していきたいと考えているため、この2点についてご承知おきいただきたい。</p> <p>委・芦原温泉駅は駅から広域利用されるが、周遊する観光地としての東尋坊や永平寺は福井駅より北にある。これらを福井駅で捌くのか芦原温泉駅で捌くのか。芦原温泉駅であれば東口に捌く機能を検討したほうがよい。</p> <p>委・西口広場は市道によってまちとの隔たりができるので、線路際に市道を配置し、市道とロータリーの配置を逆にする。さらに時間のある観光客は駅のすぐそばで乗せずに、市営駐車場辺りまで歩かせ、地元のおもてなしが受けられる駅になるとよい。</p> <p>委・できるだけ乗降をスムーズにさせるニーズがあるため、その構造が合理的かどうかである。市道の横断抵抗を少なくする工夫は可能であるが、道路の付替えは難しい。横断抵抗を少なくする一方で、まちの魅力が高まれば抵抗も少なく感じるようになるのではないか。</p> <p>事・平成18年の計画策定後に市道整備を行っているため、市道の一部は完成済である。</p> <p>委・自由通路は基本的に4mであるが、会議の中で6mの意見がある。道路事業とは別の合築として理解できるが、アイスポットとして大切な場所なので、観光面からも6mはあってもよいのではないか。</p> <p>委・新幹線は通行機能だけで4mで十分であるが、贅の駅としてイメージできるのか、また余裕幅を持たせられるのか。無駄なお金を使うのではなく、贅を効果的に使うような総合的検討をお願いしたい。</p> <p>委・新幹線から降りた時のバス乗り場や観光案内所等への案内の配慮をお願いしたい。また、デザイン部会では駅前広場をフリースペースとして有効活用したいと話があるので、まちの規模と照らし合わせて、交通機能の面積がこれだけ必要なか検討していただきたい。</p> <p>委・環境空間は交通空間と歩行空間の中間として、曖昧に使いえないだろうか。車道としてアスファルト舗装せずに、修景を凝らして、イベントも柔軟に行えるように、境界を曖昧にする工夫ができないか。</p> <p>委・駅前広場は交通をしっかりと抑える必要があるが、環境空間としてのかたまりを出すことも大事である。a キューブとの関連も含めて、広場内に植栽を施し、歩いてみたい動線としてのディティールの修景をデザインすることも必要である。</p>
--	--